

平成 28 年度 長野県須坂創成高等学校 学校評価表

学校教育目標	重点目標（中・長期的目標）	総合評価	
1 産業構造の変化に柔軟に対応し、職業人として必要とされる専門力と創造力を兼ね備えた地域産業の担い手を育成する。 2 生徒一人ひとりが輝く「明るい学園」を創造し、思いやりの心を大切にすることづくりを通し、社会に貢献できる人材を育成する。	① 総合技術高校としての特色を生かし、農工商の枠を超えたより広い専門性と柔軟な実践力を養成する。	1 学年には特色科目「産業基礎」に於いて、昨年度の実績を生かした教育活動を行うことが出来た。2 学年は総合技術高校の特色を主眼に据えて、学科連携科目などの教育活動を行うことが出来た。また、これまでの修学旅行に替えた総合技術高校としての「研修旅行」有意義に行うことが出来た。	
	② 地域に根ざした信頼される学校づくりをすすめ、地域社会を担う人材を育成する。		
	③ 自らに誇りを持ち、ルールやマナーを大切にす誠実で品格ある人間を育成する。		
	今年度の重点目標	自己評価	成果と課題、改善策・向上策
	① 生徒の希望する進路実現につながるキャリア教育を推進する。	A	産業基礎の授業を中心に進路実現につながるキャリア教育を推進することが出来た。
② 基礎学力の定着を図るとともに、体験的・実践的な学習を充実させる。	A	教科指導の補習授業や、県事業を活用した放課後の個別指導を約60時間実施し、指導体制の基盤を築いた。	
③ 自分を大切にするとともに、他者を思いやることのできる人権意識を涵養する。	B	学年全体を対象とした性教育講話や薬物乱用防止講座を実施した。	
④ 両キャンパスの連絡を密にし、学科間共通履修の「産業基礎」及び学科間連携科目の学習や学校行事、クラブ活動等を通して、学科を超えた交流と校内の活性化を図る。	A	2つのキャンパス合同の活動や講話などを計画通り実施できた。また、2つのキャンパスの全クラブが統合して活動し、県大会や全国大会に進出するクラブが増加した。	

領域	対象	評価項目	評価の観点	自己評価	成果と課題、改善策・向上策
教	教育課程	産業基礎	産業人としての基礎力を養成するための授業が実施できたか。	A	産業人としての基礎力養成と専門性へのモチベーションの向上を図ることができた。講演会も充実した内容ができたが、実施する時期についてさらに検討したい。
		コース選択	コース選択に対する適切な指導ができたか。	A	事前コース体験を2回行ったことで、より深くコースの特色を理解させ、きめ細やかなコース選択の指導が行えた。(農) 工業技術基礎の内容からコースの特色を理解させ、2度の説明と保護者への説明を実施した。(工)
		学科連携	他学科の生徒の学習に資するシラバスが作成できたか。	A	他学科の生徒が学習する自己の専門性を強化補強するためのシラバスを作成することができた。自ら選択して学習することで、より広い専門性を身につけることができた。さらに次年度の進路別選択の他学科の選択科目に連携できるよう検討したい。
育	学習指導	基礎学力の充実	学力補充が計画され、実施できたか。	B	生徒の実情に合わせたきめ細やかな指導を早期から計画・実施する必要がある。
			家庭学習の時間をもつための取組みができたか。	B	家庭学習の習慣化を図る課題では、その提出状況をより多くの教員間で情報共有し、速やかな提出を促すべきだった。
		授業方法の工夫・改善	言語活動の充実を図るための実践ができたか。	B	授業の中で聞く人に伝わるような話し方を意識しながら指導を行ってきた。自分の考えを伝えることに消極的な生徒が多いが、発表の機会を増やして慣れさせることも必要である。

活 動	生徒指導	日常生活指導	基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上に取り組めたか。	A	遅刻者の数は昨年に比べ減少傾向にあり、正しい高校生活のリズムを作らせる指導ができた。
			校則を守った身だしなみ指導ができたか。	A	多くの生徒がルールを守り、整った身だしなみであった。
		いじめの未然防止	いじめの未然防止に努めることができたか。	A	担任を中心とした生徒面談を学年として重視したため、いじめによる不登校の件数は抑えられた。
		教育相談体制	校内の教育相談体制がうまく機能したか。	B	担任や学年団と教育相談部がより密接に関わり合い、連携することで不登校の生徒を未然にバックアップすべきであった。
		家庭との連携	家庭との連絡を密にし、生徒指導に生かすことができたか。	A	日々の欠席や早退、各教科の学習状況などを学校側から一方的に連絡するのではなく、保護者から家庭の状況を伺い相談にのるなど、良好なコミュニケーションをとることができた。
	進路指導	進路情報の提供	進路情報の提供が適切になされ、生徒の進路意識を高めることができたか。	B	産業基礎の授業内で行われた本校進路指導主事の講話や、進路ガイダンスへの参加だけでなく、生徒が自ら希望する進路について調べるシステムや情報提供のあり方に更に工夫が必要である。
			キャリア教育の充実	将来を見据えたキャリア教育とインターンシップを積極的に推し進められたか。	A
	学校行事	学校行事の運営	マーケット、収穫祝、課題研究発表会が各学科において意義ある行事となったか。	B	2校が統合して3学科合同での開催は2年目となった。更に運営上の改善を要する事柄が多くあり、今後、各種行事への参加形態についてさらに工夫し、3学科が相互に連携し、今までにない魅力ある行事にしていくべきである。
	生徒会活動	生徒会活動への積極的参加	生徒会役員が広い視野を持って生徒会行事を企画・運営し、個々の生徒が参加、活躍できるような場を提供できたか。	A	後期から創成高校生徒会として動き出した。まだ大きな行事はないが、3年生を送る会、新年度に向けた準備などを行っている。役員の積極的な活動・全校生徒を巻き込んだ活動が期待できる。
	クラブ活動	クラブ活動の活性化	3校合同チームによる練習が円滑に行えたか。	A	練習内容や場所、時間の調整など課題は残るが、両キャンパスの顧問が一体となって活動出来つつある。
クラブ活動がより充実、活性化したか。			A	統合による部員数の増加や、両キャンパスの生徒が協力し合い、全国大会に出場したクラブもある。また県大会に出場するクラブも増えてきている。	
学 校 運 営	地域との連携	中学生に対するPR	体験入学等の機会を通じて中学生を広く集め、新校に対する理解を深めることができたか。	A	体験入学への参加者が前年度より増加し、計画通り中学校への学校説明を行った。結果的に、後期選抜ではすべての学科で志願者数が前年を上回った。
		地域への広報活動	新校の特色ある活動を適切に情報発信できたか。	A	須坂園芸、須坂商業のホームページとともに、須坂創成のホームページを運営して、入学案内の他、学校の様子を逐次紹介して、充実した情報発信を行えた。また、学校情報紙「きつとみつかる」を定期発行することでも学校の情報発信を行うことが出来た。
		生徒の校外活動の充実	地域との連携による生徒の自主活動ができたか。	B	農業クラブ活動や市町村連携事業に積極的に参加した。
	組織運営	総合技術高校の運営	3学科を備えた総合技術高校としての学校運営が適切になされたか。	B	新校運営委員会には、3学科の代表が参加し、課題や次年度の運営について検討した。
		キャンパス間の連携	両キャンパスが連絡を密にし、一体感のある学校運営を進めることができたか。	B	大きな行事である、「収穫祝」「マーケット」を創成生徒全員参加のもとで開催した。
		新校運営室による調整	新校運営室により諸課題の調整がなされ新校の運営が円滑に進められたか。	A	職員会議をはじめ、学年会議や委員会を合同で実施し各キャンパスへの理解が深まった。新校運営委員は年間16回を合同にて実施し、多くの課題を解決・整理できた。
	校内研修	特別支援教育等に関する事例研修	事例研修に基づく共通理解を持ち、実践につなげることができたか。	B	県事業の指定校になり、前年より大幅に指導時間を確保でき、効果的な取組となった。